

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第1号(普通期水稻)

1. 気象概要(アメダス:唐津地点)

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7	平年	R7
5	1	17.4	16.5	22.4	22.9	12.8	11.0	20.1	24.0	35.5	46.2
	2	18.1	16.5	23.1	21.3	13.6	12.8	24.4	53.5	35.0	25.9
	3	18.8	18.5	23.7	24.8	14.3	13.1	26.1	0.0	35.1	39.7
	4	19.4	22.1	24.3	26.3	15.0	18.3	22.2	35.0	35.5	21.4
	5	19.9	18.2	24.8	21.5	15.7	16.2	17.8	133.0	34.0	8.0
	6	20.4	17.7	25.0	22.9	16.5	13.6	18.5	0.0	37.1	41.4
6	1	20.9	20.0	25.2	25.5	17.3	15.4	18.2	19.0	27.3	41.2
	2	21.4	21.5	25.4	25.6	18.2	18.4	27.2	104.5	24.5	7.1
	3	21.9	22.8	25.7	25.8	19.0	20.2	40.5	64.5	22.3	1.3
	4	22.4	26.3	26.1	31.7	19.6	21.6	54.5	4.5	20.6	41.4
	5	23.0	25.2	26.6	28.1	20.4	23.0	65.1	113.5	17.8	1.1
	6	23.9	26.4	27.3	32.5	21.3	22.3	73.6	0.0	14.8	58.2

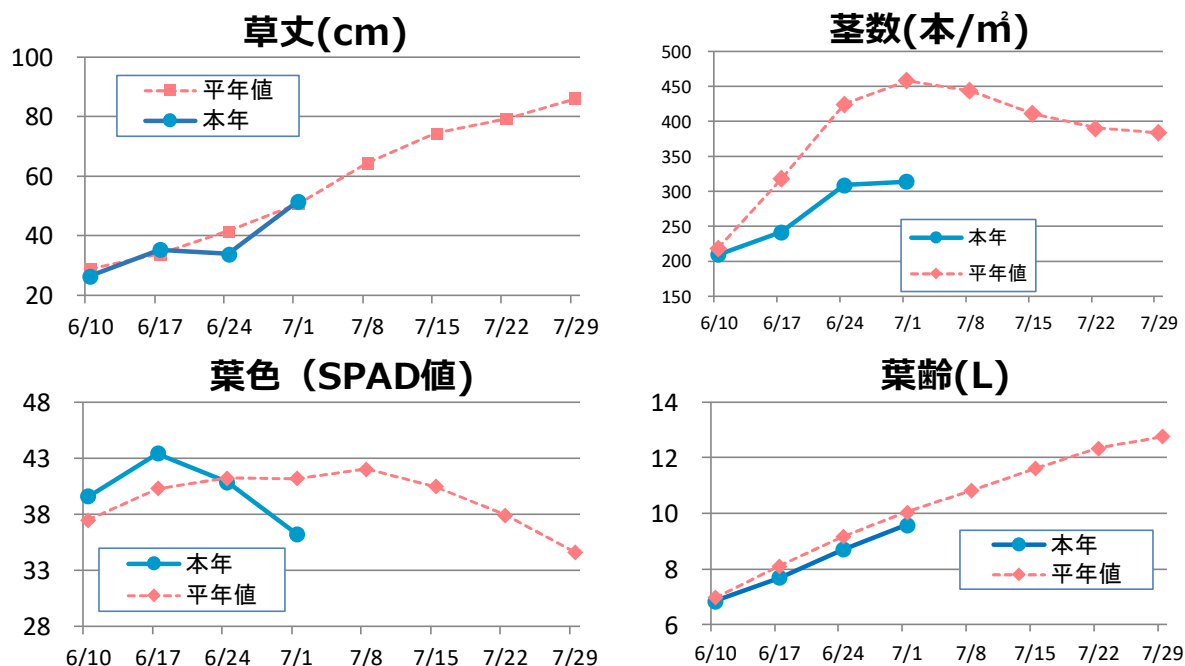
九州北部の本年の梅雨入りは 6 月 8 日、梅雨明けは 6 月 27 日と観測史上最も早い梅雨明けとなった。5 月以降気温は平年並みからやや低く推移し、5 月下旬には低温となった。梅雨入り時の 6 月 2 半旬、梅雨明け前の 6 月 5 半旬にまとまった降雨があった以外は降雨は少なく日照時間も長かった。

2. 生育状況(調査日:6月30日)

項目 品種 (設置場所)	年 次	草 丈 cm	茎数 本 / m ²	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ 唐津市厳木 町天川 5/17移植 標高 650m	本年値	51.6	314	9.6	36.2	・草丈は平年並み ・茎数は平年より少ない ・出葉は平年よりやや遅い ・葉色は平年より薄い
	平年値	50.8	459	10.0	41.2	
	平年比	101	68	-0.4	-5.0	

・作況ほの「コシヒカリ」は、5 月 10 日に移植された。移植後 5 月の気温が低く推移したため分けつの発生が遅れ茎数が少ない状態で推移した。6 月 4~5 半旬にかけて降雨、曇天が続いたためやや徒長気味となり、草丈が高くなった。これまでのところ、いもち病やウンカなどの病害虫は発生していない。

・令和7年産天川コシヒカリ生育の推移



項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概要
夢しずく 唐津市相知町 伊岐佐 6/13移植 標高 70m	本年値	33.7	169	5.9	34.2	・草丈は平年に比べ高い ・茎数は平年より多い ・出葉は平年よりやや遅い ・葉色は平年並み
	平年値	30.6	125	6.2	34.9	
	平年比	110	135	-0.3	-0.7	

・作況ほの「夢しずく」は、6月13日に移植された。移植後は天候は良く活着は良好であった。
6月4～5半旬にかけての降雨、曇天が続いたためやや徒長気味であるが、分けつ茎の発生は順調である。

3. 今後の管理

①栽培管理(山間早植)

- ・コシヒカリの移植時期は4月末～5月末と幅広く、現在の生育ステージは有効分けつ決定期～幼穂形成始期となるため、生育ステージに応じた管理を行う。
- ・5月上旬までに移植された圃場では穂肥の時期となるので、次表に基づいて穂肥診断を行い穂肥を施用する。
- ・なお、特栽コシヒカリでナタネペレットを施用する場合は窒素肥効の発現に時間がかかるので幼穂長が1～2mm確認できた段階で穂肥診断を行い穂肥を施用する
- ・今年は高温、多日照が予測されている、登熟期間の栄養不足を防ぐためにも穂肥診断に基づき可能な圃場では穂肥を施用する。

《表1 コシヒカリ(一般栽培)の穂肥診断基準》

	葉 色		施用時期		穂肥施用量
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a
生育不足	2.5 以下	28>	25~23 日	1~2mm	2.0
標 準	2.5~3.0	31	18~16	1.5~2.5cm	2.0
濃 い	3.0~3.5	34	15	2.5cm	1.0
過 剰	3.5 以上	35<	施 用 し な い		

※第3葉身長(出穂前 22~18 日ごろの最上展開葉)が 42cm 以上、または第5節間長が 3cm 以上の場合、倒伏が懸念されるので穂肥は施用しない。

《表2 コシヒカリ(特別栽培)の穂肥診断基準》

	群落葉色	穂 肥 時 期		穂肥施肥量
		出穂前	幼穂長	10a 当たり
なたねペレット	3.5 以下	25~23 日	1~2mm	20kg
	3.5 より濃い	—	—	施用しない

※施用資材・量等は、特裁の有無・地域により異なるので、地域の暦参照

- ・5月中旬以降に移植された圃場で有効茎が確保されたものは中干しに移行する。
中干しは、おおむね草丈 50cm までを目処に実施する(有効茎数 20 本/株程度)。
その後は間断灌水に移行する。

②栽培管理(平坦普通期)

移植後の圃場では分けつ確保やスクミリングガイ食害対策のため浅水管理とする。今年は越冬個体は少ない傾向であったが、気温の上昇に伴い活動個体数が増えている。ほ場の見回りを行い、必要に応じて薬剤防除を行う。

③病虫害・雑草管理(山間早植・平坦普通期共通)

- ・「ホタルイ、オモダカ、ノビエ類」の後発生が多い圃場では、中後期除草剤の対応に遅れないようにする。ただし、特裁申請している圃場では農薬成分カウント数に注意する。
- ・「いもち病」の病斑が見られる場合は、速やかに防除を行う。ただし、特別栽培表示制度を申請した産地では、農薬成分カウント数に注意する。
- ・今年はトビイロウンカの飛来は少ないが、今後の発生状況に注意し、発生予察情報を参考とし、ほ場の発生状況を確認して適期防除に努める。防除を行う場合には湛水をするとともに、株元まで薬剤が十分にかかるように散布する。



【花茎伸長したホタルイ(草丈 20cm)】



【バサグラン粒剤散布後】

令和7年産 稲作期間気象図 アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター

